

# Flower

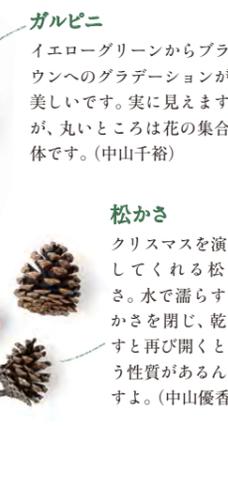
冬のシーズンをあたたかく彩るおすすめ商品と、いちおしの草花をご紹介します。



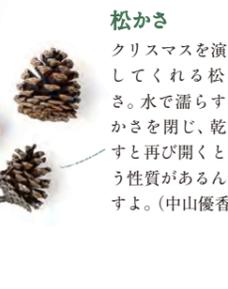
**シャンデル・ドウ・ノエル**  
深いグリーンに真っ白な花をたっぷりとおしらった、冬らしきあふれるキャンドルアレンジメント。シックで華やかな雰囲気を演出します。  
7,000円



**ユーカリ クロボラス**  
雪が積もったような姿は、幻想的。実の先端がはじけ、茶色いボタンのように姿を変えていく様も素敵です。(吉田麗)



**ガルピニ**  
イエローグリーンからブラウンへのグラデーションが美しいです。実に見えますが、丸いところは花の集合体です。(中山千裕)



**松かさ**  
クリスマス演出してくれる松かさ。水で濡らすとかさを閉じ、乾かすと再び開くという性質があるんですよ。(中山優香)

※入荷状況によりご用意できない場合もございます



## Books

部屋でつくるひとときに、おすすめの書籍をご紹介します。

### 「物語を紡ぐクロスステッチ 英国から届いたかわいいモチーフでつくる雑貨」

童話の国、イギリスから届いた刺繍図案集。物語の中のお姫様や騎士、不思議な生き物などのモチーフが登場し、心躍るおとぎの世界へと誘ってくれます。  
定価 1,900円(ビー・エス・エヌ新社)  
ソフィー・シンプソン (What Delilah Did) 著  
宮崎晴美 訳

### 「フィログラフィックス 哲学をデザインする」

〇〇主義、△△イズムといった95の哲学を、ひとつひとつシンプルでカラフルなビジュアルで表現。目には見えない「概念」を絵本のように眺めることのできる、目と頭を刺激する1冊です。  
定価 1,500円(フィルムアート社)  
ジェニス・カレラス 著  
関未玲 訳  
渡部千春 解説

# 草冠の学校

kusakanmuri school

## Wreath Collection

フラワーアーティストが提案する、個性豊かなクリスマスリース。この冬は、手づくりのリースで素敵なひとときを過ごしませんか。

岩尾真紀  
松の実の  
トラディショナルリース

Cui Cui  
ホワイトクリスマスの  
メッセージリース

今泉研也香  
多肉植物でつくる  
冬景色のリース

井出綾  
コットンのもこもこリース

松本由利  
木の实たつぷりの  
リース

岡本典子  
プロカント風  
クリスマスリース

RARI YOSHIO  
ホワイトリース

徳永真里子  
ノエルを待つ  
あじさいリース

松本由利  
森の贈り物  
ーエバーグリーンリースー

徳永真里子  
香りあふれる  
ユーカリリース

松本由利  
願い込める  
グリーンクリスマス

松本由利  
実ものでつくる  
冬のリース

「草冠の学校」の詳細とお申込みはこちらをご覧ください。  
公式サイト <http://school.kusakanmuri.com/>  
Facebook <http://www.facebook.com/kusakanmuri-school>

## 冬のこころなぎ

kusakanmuriのコンセプト  
「こころをつなぐ」をテーマに、季節の移り変わりを  
楽しむアイデアをご紹介します。

### キャンドル・リレー

ホームパーティーなど特別なシーンを演出するキャンドル。一つ一つ想いをつなぐように灯していくと、優しい光に包まれながらあたたかい気持ちに。いつもと違う会話も楽しめそうです。

Illustration/ Yuka Hashimoto

kusakanmuri  
〒150-0021  
東京都渋谷区恵比寿西1-17-2  
tel 03-6415-4193  
<http://www.kusakanmuri.com>  
open 12:00 close 20:00  
火曜定休

- JR山手線・埼京線・湘南新宿ライン  
恵比寿駅西口 徒歩4分
- 東京メトロ日比谷線 恵比寿駅4番出口 徒歩2分
- ※緑のフラッグが目印です

Cover Photo/ 水野聖二  
Art Direction & Design/ Concent, Inc.

未来を編む

# amu

kusakanmuriが店舗を構える建物、  
クリエイティブスペース「amu(アム)」

「amu」という名前は編集の「編」にちなんで付けられました。

私たち自身の生き方を編集するためのスペースとして、  
多種多様なイベントやワークショップを行っています。

### 〈大人のための寄り道ドローイング〉

フィルムアート社刊「How To See」シリーズの実践プログラム。アートになじみのない方でも、アートをつくることのできるプログラムをご用意しております。毎回、満席になる大好評のプログラムです。

### 〈佐藤真の生活編集〉

「Ovni」元編集長の佐藤真さんをお招きして、第一部のトークセッションでは音楽・編集・料理をキーワードにお話を伺いました。第二部では、ホームパーティ形式で佐藤さんの人気連載レシピから恵比寿Le Lionのつくった季節のお料理をみんなで味わいました。

このほか、学び、働き方、アートなどに関するイベントを開催しています。  
amuと一緒に、今まで知らなかった自分に出会ってみませんか。

最新のイベント情報は  
こちら

公式サイト <http://www.a-m-u.jp>  
Facebook <http://www.facebook.com/amujp>  
Twitter @amujp

コロリの

# 白花みつけ!

vol.14

## マジェスティックな南国の白い花

ベトナムの南の都市ホーチミン、というよりサイゴンと呼ぶ方が私にはなじみ深い。ここは熱帯、常夏の街だ。雨季と乾季はあっても、日本のような四季の変化はない。花を見て季節の移ろいを感じる温帯地方ならではの風情はないが、ブーゲンビリアやランタナ、ジャスミンなど明るい南国の花が年中綻乱する楽園だ。温帯と熱帯、住むならどっちを選ぶか悩ましい。

ホーチミンの強烈な日差しを避け、街路樹の日陰を求めながら旧市街のカフェに入っても、ゆるい涼しさに物足りず、エアコンが恋しくなる。サイゴン河のほとりのホテル「マジェスティック」まで足をのぼし、ドアを開けるとそこは異次元の空間。コロリアル風の白い優雅なロビーは空調も利いて涼しい。大きな壺に活けられた南国の白い花たちの乱舞は日照った身体を癒してくれそうだ。さて、屋上のカフェでサイゴン河を眺めながら、美味しいコーヒーをもう一杯。

「マジェスティック」はベトナムがフランス植民地時代の1925年に創業

文・写真/田中見二 通称コロリ。1947年長崎生まれ。教科書のデザインや女性誌「クロワッサン」のアートディレクションなどに関わる。

草冠通信  
2015-2016  
**Winter**  
vol.16

## 気持ちを結ぶ

フラワーショップ kusakanmuri より  
冬の最新情報をお届けします。

※表記価格はすべて税別です

# 気持ちを 結ぶ

ホリデーシーズンに彩りを添える、華やかなギフト。  
リボンをとく瞬間のあたたかな気持ちは、誰もが一度は味わったことがあるはず。  
それはきっと、「結ぶ」といういいいなひと手間が、  
人と人の気持ちを結び、贈りものをもっと、もっと特別なものにしてくれるから。  
あなたもこの冬、大切な人と想いを結ぶギフトを贈ってみませんか。

## Interview Ribbonesia 前田<sup>まへ</sup>麦<sup>むぎ</sup>さん

プレゼント包装といえば、色とりどりの「リボン」。いつもは贈りものを引き立てているリボンですが、それ自体の魅力も存分に引き出すと、驚くべき美しさを発揮します。それを教えてくれたのは、リボンを使って創造的な作品を生み出すアート・プロジェクト Ribbonesia を率いるアーティスト、前田麦さんです。

### —クールな自然に魅せられて

まるでリボンに魔法をかけたかのような、生命力あふれる作品で世界中にファンを持つ Ribbonesia (リボネシア)。その作品の多くは動植物をモチーフとしています。しなやかな曲線があふれる自然のモチーフだからこそ、リボンとの相性は抜群。表現の幅も広がるのだそうです。「生まれ育った札幌の気候や、周りの影響は大きいと思います。そもそも動物が好きで、小さい頃はよく父親に連れられて、オオワシやアザラシを見に



行ったりもしました。花が「綺麗」という感覚より、木の実や貝殻、昆虫など、生物的な形として「カッコいい」から惹かれるんです。Ribbonesia もちょっと男性目線なのがよかったのかな。ファブリックでもファッションでも「かわいい」ものが、一周して「カッコよく」なるようなものが好きなんです。」



床から天井まで大きささまざまな作品に囲まれ、図鑑や素材が並ぶアトリエ。まるでアート実験室のよう。

コロンとかわいらしい形ながら、エレガントな雰囲気をもつ Ribbonesia の作品。すべて手づくりのため、同じ形でも表情が異なります。



Pine Cone



Tree



Apple



Patient Dog



Heart



Onion



Snow Crystal



Baku Maeda

### —イメージをリボンでつくり出す

創作するにあたり、言葉ではなく、まずイメージがパッと頭に浮かぶという前田さん。そのイメージに近づけるためにどうアプローチするか、どんな素材をどう使えば実現するか、日々試行錯誤を続けています。デジタルからアナログへ、平面から立体へと表現に対する興味が移り変わる中で、リボンを使った表現にたどり着きました。「最初につくったのは小鳥と犬。頭の中のイメージに素材が追いつかず、試作にたどり着くまでに1年近くかかりました。一度形にするとやり直しがきかないので、ハリのある紙テープで練習したり、雑貨屋さんに通っている

種類のリボンを試したり。これはいける！という予感があったから、飽きることは一度もなかったですね。いわゆる立体の勉強はしていないですし、手芸もやったことがないので、奥さんに教わりながら、針で指をさしながら…最近やっと余裕が出てきましたね。不器用だから、わりと続けられるんだと思います。」

### —小物はなるべくシンプルに

前田さんが目指すのは、最小限の工程で最大に見せること。例えば、猫も犬も、糸で留める回数は4回だけ。穴に通したり、戻したりして一番形の良いものを探します。鹿や鳥などの大きな立体作品は、実際の骨格を調べて骨

組みを整えているとのこと。そうすれば軸がぶれず、きちんとその形になるのです。「つくってれば失敗もあるし、失敗が多いと成功も多いですから。トライアンドエラーを楽しんでいますね。」今まで思いもつかなかった方法論が見つかった時が一番ワクワクすると語る前田さん。近年では広告ビジュアルや空間演出にも活躍の場を広げ、国内外で新たな作品を発表しています。

「空間の場合は、リボンを垂らしたり、重力の影響も計算して制作します。硬くてハリのある材料であればリボンの応用がきくので、例えば柔軟性のある薄い木板や、ニューサイランの葉を使ったことも。キュートな世界をつくったら、次はシックな世界をつくるなど、バランスも大切にしています。」

### —共感が、つながる

「僕自身は頭の中のイメージを形にしたい、それを見たいという欲求や衝動で動いていて。できあがった作品を見てよと思ってくださる人、共感してくれる人がいるというのは本当に嬉しいです。」最近では新しい表現方法を試したくて、春夏秋冬、それぞれの素材や環境で実験をしています。夏は塩水で描いた絵を太陽光で乾かしてみたり、秋は乾燥した葉っぱが収縮すると、動物に見えるんじゃないかと。これからも新しいこと、誰もやっていないことに挑戦していきたいですね。」

ひねって、しばって、ねじって、輪っかにくぐらせて…それだけでオリジナルの形ができあがる、リボンの魔法。1本のリボンで1つの輪っかをつくるだけでも、なんと5パターンする方法があ



まるでリボンに命を宿すかのような、前田さんの手さばき。特注リボンの絶妙なハリが、独特の曲線美を生み出しています。



### 前田<sup>まへ</sup>麦<sup>むぎ</sup>

1974年生まれ。札幌出身・在住のアーティスト/イラストレーター。札幌の豊かな自然環境にインスパイアされた作品を多く発表。2008年よりリボンを素材とした「Ribbonesia (リボネシア)」プロジェクトを始動。国内外で高く評価され、ファッション、広告、空間演出と多様なジャンルで活躍している。  
[www.ribbonesia.com](http://www.ribbonesia.com)

インタビューの続きは「東京通信オンライン」に掲載予定です。

どうぞお楽しみに！